

かけはじ

2017
Vol.76
July



旅するいちみん Ichimin's Travels

イタリア、アメリカ、ロシアにベトナム…
iiaではいちみんを世界に旅立たせる企画を実施中です。
詳しくは、2ページへ！

世界一大きな授業 2017

in いちのみや

質の高い教育をみんなに

大和公民館 5.21

世界中の子どもたちが教育を受けられることを目指して、世界100カ国以上で一齐に開催される「世界一大きな授業」が、一宮でも開催されました。



小学校に通えない子どもや読み書きができない大人が、世界には何億人といます。その背景には戦争や貧困などがあることを知り、読み書きができないとどんな問題がおこるかについて考え、教育の大切さを、同じ時期に世界中で考えようというのが「世界一大きな授業」です。

一宮でも開催され、大人や子供を合わせて30名ほどが参加しました。「あいち国際理解教育ステーション」(AIS)のファシリテーターの楽しい語りかけのもと、7グループに分かれた参加者たちは、まず自己紹介からスタート。好きなひらがなを選び、その理由と自分がこの日呼ばれたい名前を発表しました。

世界にどれだけの割合で学校に行けなかったり字が読めない人がいるのかのクイズが出され、その後、もし字が読めなかったらという体験をワークショップで行いました。



お腹が痛くなった設定で、ベンガル語のラベルが貼られた3つの瓶から、薬を選ぶのです。グループごとに真剣に話し合って選んだのですが、正しい薬を選んだグループはひとつもなく、なんと半分は危険な農薬を選んでいました。書いてあったのは、簡単に「おなか いたい くすり」とか、「農業 虫 殺す くすり」だそうで、基本的な教育によって危険を避けることができるそうです。

この体験をもとに、文字が読めないとどうなるかについて、みんなで考え、紙に書きこんでいき

ました。そして、そういった人たちが教育を受けられるようにするために、自分たちは何をしたらいいかを考え、最後に授業を受けた「生徒」たちで、世界のだれもが教育を受けられるよう提言を発表するフォト・アクション「Raise Your Voice! (レイズ・ユア・ボイス! =声をあげよう)」を行いました。

国際交流協会ボランティアグループに新しく「ファシ138」が誕生!

このような国際理解のためのワークショップを行うには、参加者が積極的に関われるようにリードするファシリテーターの存在が欠かせません。

そこで今年の4月、国際交流協会に新しいグループ「ファシ138(一宮市国際交流協会・国際理解ファシリテーター)」が生まれました。メンバーは、「グローバル社会にはばたく子どもたちを育てたい!」という思いで、現在毎月第4水曜日に市役所に集まって勉強会を開いています。

「世界一大きな授業」のあったこの日は、授業後に国際理解教育ファシリテーター養成講座も開催され、国際理解ワークショップを体験して、ワークショップ・アクティビティ作成のコツについて学びました。

新グループ「ファシ138」は、現在メンバー募集中です。ファシリテーションに興味のある方



は、国際交流協会までお問合せください。

(日野)

日本語の全く話せない外国人への日本語の教え方講座

本庁舎会議室 2.10、24

目の前にいる日本語が全く話せない外国人に、どう日本語を教えればよいでしょうか。

日ごろ外国人に日本語を教えている人や教えることに興味を持っている人を対象にした講座が開催され、市役所11階会議室には市内外から約40名の受講者が集まりました。

初日は、豊明市のNPO法人プラス・エデュケートの森頭子さんが講師を務めました。はじめに市内の外国人の現状が全国や愛知県と比較して紹介され、いよいよ日本語指導の方法について話が始まりました。言葉の指導方法には様々なやり方がありそれぞれ一長一短があります。対象者によって学習の目的が異なるので、より適切な方法を考えることや、その時わかったように見えても実際に理解できていないこともあるので、学習の効果をすぐに確認することが大切だと説明がありました。プラス・エデュケートにおける指導実績を背景にして、文字カードや絵札を使ったやりとりや唄いながら指導する方法、さらにジェスチャーの効果的な使い方も紹介されました。

2日目は、大峯まどかさんの指導でいろいろな教材を使って具体的に指導方法を体験しました。6名1組の



グループに分かれて、絵札を見せながら物の名前や動作など日本語で表現して意思の疎通を図る訓練を繰り返し行いました。参加者は日本語が話せるため、つい簡単にできてしまいがちですが、タイ語を使って絵札の説明を受けた時にはなるほど初めはなかなか理解できないものだと思います。ゼロ初級の段階から始まって、初級の序盤・中盤へと進み、パターンプラクティスや文法指導など次々と練習をしました。

あっという間に時間が過ぎてしまいましたが、参加者は今後の指導の役に立てようと熱心に受講していました。(荒楠)

旅するいちみん Ichimin's Travels 参加者募集中!

「旅するいちみん」は一宮市と一宮市国際交流協会のPRを目的に、海外に旅行する方や、一宮市を訪問する外国人の方々に「いちみんマスコットキーホルダー」を無料で差し上げ、海外で撮影した写真をFacebookに投稿いただく企画です。また、いちみんの旅がずっと続くよう、旅の終わりに現地の方にいちみんをプレゼントして、ひきつづき投稿をお願いしています。

- 対象者：**
- ・旅行などで海外渡航予定がある方
 - ・海外の友人を持ち、確実に渡せる方
 - ・一宮を訪問する(滞在する)外国人の方 など

配布場所： iia事務局(市役所本庁舎 4階46番窓口)

- * 1回につきおひとり1個のみ。それ以上必要な場合は、観光協会(本庁舎9階)や観光案内所(i-ビル1階)でご購入いただけます。<1個500円>

投稿方法： ハッシュタグ「#旅するいちみん」または、「#IchiminsTravels」をつけて、iia Facebookページに投稿。またはメールやMessengerでiiaまでお送りください。

- *撮影地がわかるよう、地名を書いてください。

ボクたちを海外に
連れてって



説明カード付き!

ニュージーランドワインセミナー

オリナス一宮 2.17

自国のニュージーランド（以下NZ）ワインのよさを、一宮市のみなさんに知ってもらいたいと、国際交流員ロザンナさんの思いも込められて開かれました。ワインセミナーの会場は“オリナス一宮”（旧一宮市役所西分庁舎）です。大正13年に旧名古屋銀行一宮支店（設計：鈴木禎次）として建てられた歴史ある建物を改修した施設です。ここでワインを楽しめれば、至福の時間に浸れること間違いなしですね。



試飲を前に、ワインやたのしみ方について説明がありました。NZは、海が近く気候が安定していて割りに涼しく、日中と夜の温度差が大きいこと

から、ワインに適している酸味のある果実が育つそうです。そのぶどうから醸造されたワインが今日の三種類です。

ワインのおたのしみ時間は、日が落ちるころから始まります。夏はロゼワイン、家庭で楽しむのは赤ワイン、ハッピーアワーには、好きな種類のワインをとっておきのおつまみで楽しむのが一般的だそうです。

いよいよ、みなさんの最大のお楽しみの“試飲”です。最初に白ワイン「SAUVIGNON BLANC」が紹介されました。私たちにあまり馴染みがありませんが、国際ワインコンクールで金賞を受賞している実力派ワインです。爽やかさとフルーティーなのが特徴だそうです。テイastingグラスにワインが注がれると、さっそく教わったワインのたのしみ方で、グラスを手に、まずワインの色



合いを見ます。次に香りを楽しみ、最後に口に含んで甘みや酸味、舌触りなど総合的なバランスを楽し

みます。このワインを試飲したみなさんの感想は、「おいしい」、「味がまとまっている」、「品が良い」などと絶賛でした。

やはり、メダリストのテイストは参加者のみなさんの期待に答えてくれるものでした。

二番目は、カップルが造ったという、愛の赤ワイン「Pinot Noir Central Otago 2012」です。最後は淡いピンクのロゼワイン「PINOT ROSE」の三種類をテイastingして楽しみました。ワインはみなさんを多弁にするようで、どのテーブルもワイン談議に花が咲いていました。



質問コーナーで、耳の不自由な方から通訳の方を通して「ワインの飲み方としてホットワインはありますか？」と、ちょっとびっくりする質問が飛び出しました。するとロザンナさんから、「実はイギリスなどから伝わった飲み方で、ありますよ」との回答に、みなさんも驚いていました。お酒を爛で楽しむ日本と同じ文化が西洋にもあったのです。

他に、「NZは昔イギリス領なのに、どうしてウイスキーでなくワイン文化なのですか？」と質問がありました。「実はヨーロッパから、NZに移住してきた人々や、NZの人々がヨーロッパへ出稼ぎに行き、ワイン文化を持ち帰ったことで親しまれるようになりました」と、ロザンナさんの説明に納得でした。

今宵のセミナーは、ニュージーランドワインとオリナスが調和して楽しい時間が流れていました。（ドリアン）



友好都市トレビーズワインセミナー

オリナス一宮 3.3



オリナス一宮（旧一宮市役所西分庁舎）で、友好都市トレビーズワインセミナーが開催されました。講師は国際交流員のグリッロ・アレックスさんです。



抽選で選ばれた30名とボランティアさんを含め総勢35名が参加しました。

ワインの歴史から製造方法、種類など試飲タイムを交えて話をされました。イタリアでは、古く紀元前1000年ごろからワインが作られて古代ローマ時代を経て、キリスト教徒と共に広まったそうです。

製造は①収穫、②压榨、③発酵、④調製、⑤熟成の5工程でおこなわれ、④の調製工程で作りた

いワインの種類に合わせて工程内容を変えます。

日本では、あまり知られていないのがワインの法律です。ワイン文化を大切に、保護するため法律で産地、製造方法などが細かく定められているそうです。



トレビーズ市があるヴェネト州は、14種類ものDOCGワインが生産されている産地だそうです。

さてお楽しみの試飲タイムになりました。

IGTランクの赤ワイン、DOCランクの白ワイン、DOCGランクのパッシートワイン*の3種類が用意されました。

目で色合いを、鼻で香りを、口で味わいを楽しんで飲むのが良いようです。全員が大きな声で「サルーテ」と乾杯をして、はじまりました。

参加者からは、「酸味がつよいな〜」、「飲みやすい!」、「香りがすてきだわ」などなど講評がとびだして今まで静かだった会場が賑やかな品評会の様子にかわりました。



イタリアでは一般的な750mlサイズのボトルが、日本円で約2000円位で販売されているそうです。

ワインを購入するときは、ラベルを確認してから、色合い、香り、味を楽しんで飲みたいと思います。



(akeharu)

*干しぶどうから作った、特別なワイン

2. ワインの種類

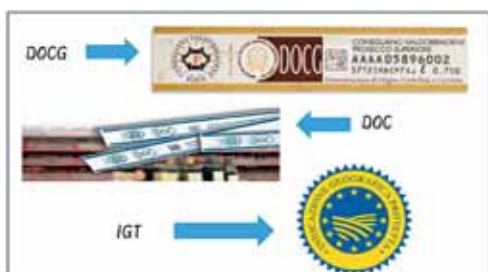
- DOCG 保証付原産地統制呼称
- DOC 原産地統制呼称
- IGT 保護指定地域表示
- Vino da Tavola 普通



その規則によって、DOCG、DOC、IGT、普通のワインと4ランクに分けられます。

DOCGランクはフランスが1種類に対してイタリアは、74種類も作られています。

きびしい規則を守って作られたワインには証明書のラベルが貼られます。



きっとあなたも輝ける!

2017年度

JICAボランティア 春募集「体験談&説明会」

中央図書館6階 多目的室1 4.2

一宮市とJICAの共催で、体験談&説明会が行われました。世界について知りたい、ボランティアをやってみたく、たくさんの方が参加しました。体験談ムービーでは、現地で奮闘している様子や、帰国してから経験を活かす様子などが映し出され、一歩外に踏み出した世界に、見ているこちらの心が踊るようでした。



JICAの制度や応募方法などの説明になると、皆さん真

剣に配布された資料を見つめていました。一宮市からは、今までに105名のJICAボランティアが発展途上国に派遣されています。

ブータンやベトナムなどに派遣されたOB・OGの方4名が登場し、それぞれ1枚の思い出の写真について語っていただきました。

説明会会場の隣室と、一宮市役所本庁舎1階の資料コーナーにて、JICAボランティア写真展も開催され、現地の人々の笑顔溢れる写真などが展示され、来場者は皆さんは熱心にご覧になっていました。(大野)



友好都市トレヴィーゾ 5周年記念事業

イタリア文化と初級イタリア語講座

ききょう会館 5.9～7.11 (10回)

友好都市を知ってもらうため、トレヴィーゾ出身の国際交流員アレサンドラさんを講師に、イタリア文化の紹介を交えながら、ゼロから始める週1回の初級イタリア語講座を夜間講座として開催しました。幅広い年齢の受講生31人の目的は、トレヴィーゾに行きたい・文化を知りたい・言葉を知っていれば旅も楽しいだろうなど多彩でした。

講師は、皆に見られて少し恥ずかしいと言いながら、「イタリア語を楽しんでください。少し話せるようになると嬉しくなります。講座の中



では、文法を教えたい。イタリア語の一般的なルールを知れば会話が弾み楽しくなります。講座中でも、恥ずかしがらないでいつでも何でも聞いてくださ

い。イタリア語は難しいですが、間違ってもいいのでイタリア語を話してみてください。」と呼びかけました。

1回目はイタリアの歴史、古代ローマ時代からの流れが今の6000万人のイタリアの文化を作ったことや、多くの国と接した影響で言語島と言われ、イタリア語を含む12言語が使われることによる地域の特殊性の説明を受けました。

そして、イタリア語の授業が、簡単な自己紹介の練習から始まりました。

「Piacere. Io sono Alessandra. Sono italiana, di Treviso.」(はじめまして、アレサンドラです。イタリア人で、トレヴィーゾ出身です。)の例文を一人一人に当てる為に通路を縦横無尽に動き回り、受講生に緊張感を持たせたまに授業を進めました。10回の講義でイタリア語が話せるようにとの配慮から、本の重要な部分だけを選びかつハイペースで講座は進んでいきました。宿題と補足プリントも用意され終了時にはイタリア語が話せるようになるように準備された講座でした。(佐野)



おとなりさん



私はアメリカ合衆国フロリダ州出身の、セーラです。現在、名古屋市千種区在住。仕事は一宮市で3つの幼稚園とミラズ英会話一宮校で、英語を教えています。高校までは小説家が夢でしたが、教師もいいなと思うようになりました。

大学3年の時、名古屋の南山大学へ留学して、いつかまた日本へ行きたいと思っていました。それでも、ママの希望で1年間地元で仕事を探したけれど、結局日本行きを決めました。

とにかく名古屋の味噌カツ、味噌おでん、煮込みうどん、赤味噌が大好きです。お抹茶で、和菓子を頂くのも最高です。

でもママの*キャセロールはやっぱ一番かな。TVは持っていません。インターネットやスマートフォンのアプリを使ってニュース、コメディなど世界の情報を得ています。

日本に生活して驚いたことは、公共交通機関が発達していることです。大都会ではなく、比較的小さな町でも、バス、JR、私鉄の交通網が行き渡っ

ていることです。後、日本人はきれい好きだと思うのですが、意外と公共トイレにハンドソープが無いです。ウォータークーラーも無いですね。アメリカでは大体公共トイレには、ハンドソープ、ウォータークーラーはあります。

休日は、大人のぬり絵にはまっています。また、スイングダンスで体を動かすこともやっています。

今、名古屋スイングクラブの仲間と活動をしていて、このクラブはただいま、男性大募集中です。そして、人生のパートナーも大募集中です！



今回は、笑顔がチャーミングなセーラさん、フロリダのディズニーワールドに25回も行ったそうです。日本の生活にも慣れももっと、もっと日本を知ってください。そして、知れば知るほど知らない日本に出会えますよ！（みかん）

*キャセロール：肉や野菜などをソースで味つけ、オープンで焼く料理

iia information

*協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

世界をまなぼう！ セタグローバルサマーセミナー

日時：7月26日(水)
午前10時～午後3時30分
会場：本庁舎11階会議室、14階大会議室ほか
内容：世界のダンスやゲーム、国際理解ワークショップ、クラフト体験、フェアトレード商品がもらえるスタンプラリーなど

特別講座：
ダイアン吉日さん
(バイリンガル落語家)
による英語落語&講演
「笑いで世界をひとつに」

時間：午後2時～3時30分
会場：本庁舎14階大会議室



世界をあそぼう！ フレンドシップフェスティバル2017

日時：9月30日(土)、10月1日(日)
午前10時30分～午後5時
会場：イオンモール木曽川 ノースコート
内容：世界のステージ、クラフト体験、民族衣装の試着体験など

iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。



Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.

地球あっちこっち

学生時代世界15か国を周り、うち1年は米国留学を経験。
ビジネスを通し世界を豊かにするのが夢。

世界が私に与えた使命感

たじま あきたけ
田島 明岳

何も夢がない。何のために生きているのだろうか？人生に迷いが生じ始めていた大学2年生の夏、私は初めて単身でいわゆるバックパッカーとして海外を周り始めました。初めて訪れた国はベトナム。本に



載っている写真とはかけ離れた大気汚染、交通渋滞、治安、衛生問題などを目の当たりにし驚愕しました。その後カンボジ

アやミャンマー、インドなど主にアジア諸国を長期の休みの度に周り続け、お金を騙され、さらにはカメラと携帯を盗まれ、様々なトラブルに巻き込まれながらも冷静に物事に対処し最適な解決手段を考え実行する能力を身に付けていきました（あらかじめ防ぐことがもちろん重要です）。そして日本の安心・安全な社会とはかけ離れた世界を見た時に、私には夢ができました。「生まれた地によってこんなにも生活に違いが生じるなんて不公平ではないか？この人たちの暮らしを豊かにしたい」こんな思いが徐々に芽生え始め、私は世界を周る目的を「各国の人々の生活水準を知る」こととし第一線で活躍する奉仕団体やJICAの方々へ直接連絡を取り、現地のスラム街や活動区域の見学などをさせて頂きました。「自分の知的欲求が満たされる」そう考えて行動した一

連の活動でしたが、最終的に私に残ったのは己の無力感のみでした。「現実を知ったからどうなんだ？貧困ボ



ランティアして自分は良いことをしたと自己満足に酔うだけではないか？」当時は自分が何も解決する手段を持っていないことに非常に落胆しました。そこで私は次なる目標を見つけました。「世界の社会インフラを整える企業に就職し組織として莫大な資金・人員・洗練された技術を通し世界を変えたい」という夢です。そのために大学3年時、英語力、異文化理解・受容力、経営力を身に付けようと米国留学に挑戦しました。そして現在、2017年4月より自身の夢であった総合電機メーカーへと就職しました。

今の時代、学生であっても簡単に海外へ行けてしまいます。バカンスだけではなく学びという視点で五感を最大限まで活用し外国に触れるのも私は必要だと思います。些細なことから多くのことを感じ取れる環境が一步日本の外に出ればたくさん存在しています。何も既知のコミュニティの中で生きていく必要なんてないのです。世界にはあなたという人間を求めている場がたくさん存在します。恐れることなく世界を知る事があなたに目標を与え国境に捉われないスケールの大きい人間に成長させてくれると私は思います。

編集後記

犬の好きです。今の子が3代目。犬のいない生活は考えられません。犬の散歩が大変そうって思う人がいるかもしれませんが、いえいえ、その逆です。私は、犬に散歩させてもらっています。犬を通じて知り合ったご近所さんのおかげで、この土地に馴染むことができました。毎日必ず歩くので、健康的にダイエットもできます。お犬様さまなんです。いつか、ご縁がありましたら、保護犬をもらい受けたいと思っています。（ゆご）

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。